

1 学習指導要領改訂に向けての家庭科、技術・家庭科家庭分野について

(平成 28 年 6 月 8 日教育課程部会、家庭、技術・家庭ワーキンググループ資料より抜粋)

(1) 家庭科、技術・家庭科家庭分野の見方・考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象において、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活を実現するために考えること。

(2) 育成すべき資質・能力の整理

幼児期に生まれた資質・能力や、小学校低学年・中学年における学習を通じて身に付けた資質・能力の上に積み上げる形で、小学校家庭科、中学校技術・家庭科家庭分野、高等学校家庭科を通じて育成すべき資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等、情意、態度等に関わるもの」の三つの柱に沿う。

① 知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)

・生活の自立に必要な基礎的な理解と技能であり、家庭の基本的な機能及び家族についての理解、幼児、高齢者についての理解・技能、生活の自立に必要な衣食住についての理解・技能、消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための基礎的な理解・技能等

② 思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)

・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力

③ 学びに向かう力、人間性、情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)

・家族や地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。その他、小・中・高等学校をともに生活を楽しみ、味わい、豊かさを創造しようとする態度、日本の生活文化を大切にし、継承・創造しようとする態度等

(3) 資質・能力を児童生徒に育む視点からの目標の設定

◇技術・家庭科 家庭分野

- ① 家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能を養う。
- ② 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- ③ 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

(4) 資質・能力を育む学習過程の在り方

◇ 生活の中の様々な問題の中から課題を設定し、その解決を目指して解決方法を立案・検討し、計画を立てて実践するとともに、その結果を評価・改善するという活動の中で育成できると考える。

① 生活の課題発見

・生活経験や既習の知識・技能を基に生活を見つめることを通して、生活の中から問題を見出し、解決すべき課題を設定する力を育成する。

② 解決方法の検討と計画

・生活に関わる知識・技能を習得し、解決方法を検討して、決定し、解決の見通しを持って計画を立てることを通して、生活課題について多角的に捉え、解決策を構想する力を育成すること。  
・他者からの意見等を踏まえて、計画を評価・修正し、最善の方法を判断・決定すること。

③ 課題解決に向けた実践活動

- ・生活に関わる知識・技能を活用して調理・製作等の実習や、調査、交流学习などを通して、解決策を実践する力を育成するとともに、それらの実践を通して、思考・判断・表現力を深めていくこと。

④ 実践活動の評価・改善

- ・実践した結果等を振り返って評価し、結果についての発表等を通して改善策を検討するなど、自分の活動を振り返り、改善する力を育成すること。

児童生徒の状況や題材構成、指導計画等に応じて異なることに留意する必要がある。また、家庭や地域での実践は、①～④に続く一連の学習過程と考えられ、中学校における「生活の課題と実践」においては、学校での学習を家庭や地域で実践することにより、実生活で活用する力を高めることができると考える。

(5) 資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の構造化

◇ 小・中・高等学校の各内容の系統性に基づいた構造化

① 家族・家庭生活 ② 衣食住の生活 ③ 消費生活と環境

- ・①から③に関わる知識や技能について、学校段階に応じて概念化、体系化されて、身に付くことから、それぞれを適切に関連付けながら内容を構造化すること
- ・家庭や地域社会と連携を図り、学校での学習を家庭・地域における実践として活かすことに留意し、各学校段階に応じて内容を改善すること

◇ 学習対象の構造化 ⇒ 相互に関連させ、学びが深まるように配慮

- ・空間軸：家庭、地域、社会という空間的な広がり（中学校は、家庭と地域）
- ・時間軸：「生涯を見通す」という時間的な広がり（中学校はこれからの生活を展望した現在の生活）

◇ 学習過程を踏まえた構造化

- ・生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、それらを衣食住などの学習題材の中に組み込む  
⇒ 「生活の課題と実践」、他の内容と関連を図った総合的な問題について扱う

(6) 家庭科、技術・家庭科家庭分野「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善  
「深い学び」

：学んだ知識を既存の知識や生活体験等と関連付けて考えることを通して、自分の生活に活用できる新たな知識として価値付けたり、身に付けた技能に科学的な根拠付けをすることを通して、客観的な技術を高めたりして自ら成長していることを確認できる活動

「対話的な学び」：他者とコミュニケーションを深める活動として、他者との会話を通して考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたりするなど、協働的な関係を築く学習活動を積極的に取り入れることが考えられる。（グループ活動やペア学習、討議、ディベート、ロールプレイング等）

「主体的な学び」：学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりする活動に取り組む等の学び

(7) 他教科との連携（カリキュラムマネジメント）、配慮事項

- ・他教科等で行う実践的・体験的な学習と関連を図ることができるのかや指導の時期等について
- ・消費生活、環境、伝統文化、防災等、教科横断的に取り上げられる教育に関して、関係する教科等とそれぞれの特質に応じた連携の在り方について
- ・地域の関係機関（幼稚園や保育所、消費生活センター等）や人材との連携の在り方について